

# インフォメーション・コーナー

## 会 告

|                                                                   |    |
|-------------------------------------------------------------------|----|
| ○「(社) 農業土木学会」の名称が「(社) 農業農村工学会」に変わりました                             | 76 |
| ○(社) 農業農村工学会名称変更記念論文の募集                                           | 76 |
| ○平成 19 年度会員名簿の掲載事項について                                            | 77 |
| ○農業農村工学会ダム研究委員会シンポジウムの開催について                                      | 78 |
| ○名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」の開催                                 | 78 |
| ○地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム(案)の開催                                       | 79 |
| ○平成 20 年度農業農村工学会賞候補の推薦について(再々)                                    | 80 |
| ○平成 19 年度「研究グループ」助成について                                           | 80 |
| ○学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!                                          | 80 |
| ○「農業農村工学会学術基金」の募金について                                             | 80 |
| ○農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い                                  | 81 |
| ○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について | 81 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと編集事務局(投稿先)のお知らせ     | 82 |
| ○農業農村工学会誌への投稿お待ちしております!                                           | 82 |
| ○身近にある水利遺構で表紙を飾ろう!!「水土の知(農業農村工学会誌:旧/農業土木学会誌)」                     |    |
| 平成 20 年夏季の表紙写真の募集                                                 | 83 |
| ○第 56 回北海道支部研究発表会の開催について(第 1 報)                                   | 84 |
| ○北海道支部第 34 回研修会または第 31 回シンポジウムの開催について(第 1 報)                      | 84 |
| ○平成 19 年度東北支部総会・第 51 回研究発表会並びに第 41 回支部研修会・                        |    |
| 第 31 回地方講習会の開催について(第 3 報)                                         | 84 |
| ○平成 19 年度応用水理研究部会講演会開催について                                        | 86 |
| 学会記事                                                              | 87 |

### 第 75 巻 10 号予定

**展望:** 地理空間情報共有化の時代: 本間 泰造

**小特集:** 農業農村分野の GIS (活用事例)

- ① 農業農村に関わる GIS の先端的な取り組み事例: 小川 茂男他
- ② 農業基盤に関する空間情報基盤の整備と活用: 鷹簀 俊孝他
- ③ 島根県中山間地域における GIS の利活用の取り組み: 藤山 浩他
- ④ 農地災害調査情報の GIS 化と情報共有: 黒田清一郎他
- ⑤ 滋賀県における GIS の取り組みについて: 森川 学他

### 技術リポート

北海道支部: 鉄付着防止暗渠土管による低コストな管閉塞軽減技術: 松岡 祐司他  
東北支部: 樋管補強のための鋼板内巻工法の採用: 紺野 昭浩  
関東支部: 羽根倉ファームポンドにおける人工浮島の設置と希少種バンの繁殖: 加藤 修一他  
京都支部: ライフサイクルコストを考慮したトンネルの照明—無電極蛍光灯の採用—: 勝田 鉄次  
中国四国支部: 農業用ため池におけるフロート式取水工の採用について: 安田 賢司他  
九州支部: TRD 工法による伊江地下ダム止水壁の試験施工について: 佐伯 和英他

**講座:** 生態系配慮の基礎知識(その 4)—水田とため池の動物相: 齊藤 秀生

**小講座:** 環境リモートセンシング: 多炭 雅博

## 農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。奮って参加下さるよう、お待ちいたしております。

のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム、または認定申請中を表しています。

| 開催日             | 主催         | 行事名                    |                                                                                     | テーマ | 開催場所 | 掲載号     |
|-----------------|------------|------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|-----|------|---------|
| 平成19年10月4日      | ダム研究委員会    | ダム研究委員会シンポジウム          |    |     | 東京都  | 75巻8,9号 |
| 平成19年10月9日      | 地球環境研究委員会  | 地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム   |    |     | 東京都  | 75巻8,9号 |
| 平成19年10月18, 19日 | 九州支部       | 第88回講演会・第30回地方講習会      |    |     | 佐賀市  | 75巻5,8号 |
| 平成19年10月26日     | 資源循環研究部会   | 平成19年度研究発表会            |    |     | 東京都  | 75巻4,8号 |
| 平成19年10月25, 26日 | 中国四国支部     | 第62回研究発表会              |    |     | 宇和島市 | 75巻6,7号 |
| 平成19年10月30日     | 北海道支部      | 第56回研究発表会              |    |     | 札幌市  | 75巻9号   |
| 平成19年10月31日     | 東北支部       | 第51回研究発表会              |    |     | 福島市  | 75巻8,9号 |
| 平成19年11月1日      | 東北支部       | 第41回支部研修会<br>第31回地方講習会 |    |     | 福島市  | 75巻8,9号 |
| 平成19年11月7, 8日   | 関東支部       | 第58回支部講演会              |    |     | 水戸市  | 75巻6,8号 |
| 平成19年11月8, 9日   | 京都支部       | 第64回研究発表会              |    |     | 和歌山市 | 75巻6,7号 |
| 平成19年11月8, 9日   | 水文・水環境研究部会 | 第20回シンポジウム             |    |     | 岡山市  | 75巻5号   |
| 平成19年11月15, 16日 | 中国四国支部     | 第36回支部研修会<br>第31回地方講習会 |    |     | 広島市  | 75巻6,7号 |
| 平成19年11月20日     | 北海道支部      | 第34回支部研修会              |    |     | 札幌市  | 75巻9号   |
| 平成19年11月29日     | 行事企画委員会    | 名称変更を記念するシンポジウム        |   |     | 東京都  | 75巻8,9号 |
| 平成19年12月4日      | 北海道支部      | 第34回研修会・第31回シンポジウム     |  |     | 札幌市  | 75巻9号   |
| 平成19年12月6, 7日   | 農村道路研究部会   | 平成19年度農村道路研究集会         |  |     | 大阪市  | 75巻8号   |
| 平成19年12月10, 11日 | 応用水理研究部会   | 平成19年度講演会              |  |     | 岐阜市  | 75巻9号   |
| 平成20年1月31日      | 北海道支部      | 地方講習会                  |  |     | 札幌市  |         |

## 「(社) 農業土木学会」の名称が「(社) 農業農村工学会」に変わりました

名称変更に係る定款の一部改正について、(社) 農業土木学会第201回理事会(平成19年5月10日開催)、第40回通常総会(平成19年5月23日開催)での議決を経て、平成19年6月4日に主務省庁である文部科学大臣への認可申請を行い、6月29日に認可

され同日より「(社) 農業農村工学会」(The Japanese Society of Irrigation, Drainage Rural Engineering 英文略称表記: JSIDRE は、変更なし)に名称が変わりました。

## (社) 農業農村工学会名称変更記念論文の募集

### 農業農村工学会研究委員会

#### 1. 募集の趣旨

近年の学会活動並びに農業農村振興施策の動向は、これまでの農業土木のコアの科学技術体系として代表される灌漑排水、開拓、干拓、農地開発、圃場整備、農地防災といった範囲にとどまらず、農業農村の果たす多面的・総合的役割等に係わる視点を取り入れ、水環境、資源循環、農村環境、地域振興、地域資源管理、海

外農業農村開発、自然再生といった幅広い分野に及んでいます。

このように、本学会や会員の活動範囲とその対象が、従来の農業土木を前提としつつも、「農業土木」が喚起するこれまでのイメージに収まらない領域まで拡大してきました。

一方、大学や農業高校における農業土木を冠した学科専修等の名称の変更等、社会においてこれまで広く用いられてきた農業土

木という名称の多様化が進み、農業土木に関与する者が自らのアイデンティティを主張することが難しくなってきました。

このような状況を踏まえ、研究者、技術者が共通して保有することのできる包括的な科学技術の体系にふさわしい本学会の名称を適切に表現するため、「農業土木学会」から「農業農村工学会」に変更し、学会員が志しを高くして、社会の発展に寄与できるよう変更したものです。

これを契機として本学会は、今後更なる学術と技術の進歩普及に努め、農業農村の発展に寄与し、時代の要請に応じていく大きな責務があります。

そこで、今後の学会の進むべき方向やこれからの学会に期待する事項等について、論文を募集することと致しました(5,000字程度)。

広く一般から応募していただき、将来の農業や農村、それを支える科学技術のあり方を展望するヒントにしたいと考えておりますので、奮ってご応募下さい。

## 2. 募集要領

### (1) 募集内容

農業農村工学会の今後の進むべき方向やこれからの学会に期待する事項等について、5,000字程度に纏めて下さい。未発表のものに限ります。

### (2) 応募資格

応募者の資格は問いません。特に若い方々からの応募を期待しております。

### (3) 応募方法

ワープロ（ワードまたは一太郎）、A4版縦、11ポイント、35文字×35行の横書きとし、表紙に①標題、②住所、③氏名（フリガナ）、④年齢、⑤職業、⑥連絡先、⑦電話・FAX番号を明記の上、文書ファイルを3.(5)の応募先にE-mailでお送り下さい。

## 3. 締切および応募先など

(1) 締切 平成19年9月末日

(2) 審査 学会内に審査委員会を設けて審査します。

(3) 賞および賞金 最優秀賞1点：10万円、優秀賞2点：各5万円。

(4) 発表等 入賞論文は、農業農村工学会誌「水土の知」に掲載します。入賞された論文の著作権は、農業農村工学会に帰属します。なお、応募原稿は、返却致しません。

(5) 応募先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(社) 農業農村工学会

担当：調査研究部 庄田

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494

E-mail：shoda@jsidre.or.jp

## 平成19年度会員名簿の掲載事項について

平成19年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵便、E-mailまたはFAXで、**10月5日（金）**までにご連絡下さい。**（非掲載項目につきまして、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。）**

なお、ご連絡がない場合は、掲載に同意されない事項がないものとしします。

### 記

#### 会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】  
⑤【資格】 ⑥【勤務先及び役職】 ⑦【自宅住所】  
⑧【自宅電話番号】

#### 連絡先

郵便の場合：〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4  
(社) 農業農村工学会 花塚宛

E-mailの場合：hanatsuka@jsidre.or.jp

FAXの場合：03-3435-8494

### (参考)

#### 会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

- 利用目的の特定、利用目的による制限  
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
- データ内容の正確性の確保  
個人情報の正確性、最新性を確保する
- 安全管理措置、従業者、委託先の監督  
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
- 第三者提供の制限  
名簿は、(社) 農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布し、他の第三者には販売・提供しない。

## 農業農村工学会ダム研究委員会シンポジウムの開催について

農業農村工学会ダム研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



### 1. 目的

農業農村工学会では、平成元年度から、学識経験者から構成される「ダム研究委員会」を設け、農業用ダムの築堤材料、基礎地盤の遮水性の改良、ダムの耐震設計手法の高度化、ダムの嵩上げ等の再開発や再整備に関する技術課題の研究・検討を進めてきました。

このシンポジウムは、平成18年度に第4期研究委員会（H14～H18年度）を終了したことから、研究成果を広く農業用ダム技術者へ周知するとともに、参加者からの質問を通じた課題把握の中で、各ダムが抱える技術課題の解決に向けた糸口を見いだすことを目的に開催いたします。

**2. 日時** 平成19年10月4日（木）10:00～17:20

**3. 場所** 農業土木会館6階大会議室

### 4. プログラム（仮題）

- 10:00～10:20 挨拶 京都大学名誉教授 長谷川高士  
京都大学名誉教授 沢田 敏男  
農村振興局
- 10:20～10:50 (1)GISと高分解能衛星画像DEMによる淡路  
ため池決壊の要因分析  
石川県立大学教授 青山 咸康
- 10:50～11:20 (2)マスコンクリートにおける実測ひずみから  
の応力算定について  
三重大学名誉教授 浅井喜代治
- 11:20～11:50 (3)低コストで耐震性強化・環境配慮対策可能  
なため池改修技術の実証試験計測  
神戸大学教授 内田 一徳
- 11:50～12:40 （昼食休憩）

12:40～13:10 (4)貯水圧および外力の繰り返しによるフィル  
ダムの安定性解析手法に関する研究

東京農工大学准教授 向後 雄二

13:10～13:40 (5)異方硬化弾塑性構成モデルおよびエンドク  
ロニックモデルによる液状化解析に関する検  
討 東京大学教授 田中 忠次

13:40～14:10 (6)緑のダム機能の水文学的評価に関する研究  
神戸大学教授 田中丸治哉

14:10～14:40 (7)長期気象資料からみた確率日雨量の経年変  
化 岡山大学教授 永井 明博

14:40～15:10 (8)コンクリートダムの温度応力解析の検討に  
関する研究 島根大学教授 長東 勇

15:10～15:20 （休憩）

15:20～15:50 (9)可搬式フィルタープレス機を用いたため池  
底泥の処理 岡山大学教授 村上 章

15:50～16:20 (10)長期供用ダムの機能診断手法  
農村振興局設計課

16:20～17:20 総合討論 司会 長谷川高士  
情報交換会 17:30～19:00 参加費2000円

### 5. 申込方法

FAX(03-3435-8494)またはE-mail (manome@jsidre.or.jp) でシ  
ンポジウムの名称、氏名、所属、電話番号をご記入の上、平成19  
年9月28日までに申し込み下さい。

### 6. 問合せ先

(社)農業農村工学会 馬目 <sup>まのめ</sup>

☎03-3436-3418

E-mail: manome@jsidre.or.jp

## 名称変更を記念するシンポジウム「農業農村工学会に期待する」の開催

農業農村工学会行事企画委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



### 1. 趣旨

当学会は、農業土木学会として、80年に及ぶ活動を継続してわ  
が国の農業、農村ひいては社会の発展に貢献してきました。近年  
の農業、農村を取り巻く急激でさまざまな変化への対応のため、  
学会会員の研究領域、活動の場は、“農業土木”が喚起するこれま  
でのイメージに収まらない領域まで拡大してきました。

そこで、学会は新たな理念、「新たな水土の知の定礎をめざして」  
を策定し、この理念の実現に向けた旗印としての学会名称を変更  
し、6月29日、文部科学大臣より社団法人農業農村工学会として  
認可されました。

この新たな出発に当たり、外部有識者を含む方々から講演をい  
ただき、会員認識を新たにし、意見交換を行う場を設けることと  
しました。

### 2. シンポジウムの開催概要

1) 日時 平成19年11月29日（木）14:00～17:25

2) 場所 KKR ホテル東京 11F「孔雀の間」  
東京都千代田区大手町1-4-1

3) 参加費無料

4) 次第

14:00～14:15 ① 開会挨拶

農業農村工学会長 青山 咸康

② 講演

- 14:15~15:00 基調講演1 「農業農村工学会に期待する」  
 東京大学大学院農学生命科学研究科教授 林 良博  
 15:00~15:40 基調講演2 「農業農村工学会へ行政技術陣としての期待」 農林水産省農村振興局長 中條 康朗  
 15:40~15:55 一休憩—  
 15:55~16:35 ③ 懸賞論文表彰 3件 (予定)  
 16:35~17:20 ④ パネルディスカッション  
 座長 京都大学名誉教授 三野 徹  
 17:20~17:25 ⑤ 閉会

3. 情報交換会の開催概要

- 1) 日 時 平成19年11月29日(木) 17:30~19:00

- 2) 場 所 KKR ホテル東京 10F「瑞宝の間」

- 3) 参加費 一人3,000円

4. 申込方法

学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の「各種行事参加申込書」に必要事項を記入の上、FAX(03-3435-8494)またはE-mail ([hanatsuka@jsidre.or.jp](mailto:hanatsuka@jsidre.or.jp)) で、平成19年11月12日(月)までにお申込み下さい。また情報交換会に参加される方は「各種行事参加申込書」の「備考欄」にその旨記入をして下さい。

定員(100名)に達し次第締切とさせていただきます。

5. 問合せ先

(社) 農業農村工学会 花塚・庄田

☎03-3436-3418

E-mail: [hanatsuka@jsidre.or.jp](mailto:hanatsuka@jsidre.or.jp)

地球温暖化と農業資源に関するシンポジウム(案)の開催

地球環境研究委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



1. 趣旨

地球温暖化は、将来世代にどのようにして住みやすい環境を残していくかの問題であり、これに適切に対処していくことは、現在を生きる私たちの大きな責務でもあります。また、農林水産省では、農林水産分野における地球温暖化防止策や地球温暖化の進行により懸念される農林水産業への影響に対処するための対策を加速化することとしています。

本シンポジウムは、地球温暖化がわが国の食料供給の基盤である農業資源に与える影響と適応策に関する研究活動の現状と展望について広く社会の皆様にご存知いただくために開催します。

皆様のご参加をお待ちしています。

2. 開催日 平成19年10月9日(火) 13:00~17:00

3. 会 場 星陵会館(東京都千代田区永田町2-16-2)

4. 主 催 (社) 農業農村工学会

共催(予定): (独) 農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究所, (独) 農業環境技術研究所

後援(予定): 農林水産省, 日本農業気象学会, (財) 日本水土総合研究所, (独) 水資源機構, 全国水土里ネット

5. 参加費 無料

6. プログラム

【開会挨拶】13:00~13:10

黒田正治 農業農村工学会・地球環境研究委員会委員長

【基調講演】13:10~14:00

「気候変動と水循環・水資源・水災害」(仮題)

寶 馨(たから かおる) 京都大学防災研究所教授

【講演】14:00~17:00 (休憩 15:20~15:30)

- (1) 「農林水産省地球温暖化対策総合戦略について」

西郷正道 農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課長

- (2) 「地球温暖化が近未来のわが国の気候に及ぼす影響」(仮題)

江守正多 (独) 国立環境研究所地球環境研究センター  
 温暖化リスク評価研究室長

- (3) 「地球温暖化がわが国の農業に及ぼす影響」(仮題)

鳥谷 均 (独) 農業環境技術研究所大気環境  
 研究領域上席研究員

- (4) 「地球規模の水循環変動が農業用水に及ぼす影響と対策」(仮題)

増本隆夫 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構  
 農村工学研究所農地・水資源部水文水資源研究室長

【閉会挨拶】16:50~17:00

小前隆美 (独) 農業・食品産業技術総合研究機構  
 理事・農村工学研究所長

7. 申込方法

FAX(03-3435-8494)またはE-mail ([shoda@jsidre.or.jp](mailto:shoda@jsidre.or.jp)) で学会ホームページ (<http://www.jsidre.or.jp>) の「各種行事参加申込書」に必要事項をご記入の上、10月1日(月)までにお申込み下さい。

8. 問合せ先

(社) 農業農村工学会調査研究部 菊辻

☎03-3436-3418

E-mail: [shoda@jsidre.or.jp](mailto:shoda@jsidre.or.jp)

## 平成20年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再々）

平成20年度の農業農村工学会賞（上野賞、沢田賞を除く。）を、第75巻6号、p83の募集要項に則って、推薦書によりご推薦下さい。

締切りは、平成19年10月末日となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

## 平成19年度「研究グループ」助成について

申請のあった「研究グループ」助成について、研究委員会において審査の結果、下記グループが認定されました。

### 記

代表者 濱本昌一郎（埼玉大学大学院） 他2名

テーマ 土壌中におけるガスの移流・分散現象に関する研究

代表者 濱田 康治（（独）農研機構 農村工学研究所）他3名

テーマ 循環灌漑が農業用水中の重金属濃度に及ぼす影響

代表者 大西 健夫（総合地球環境学研究所）他3名

テーマ 湿原における水環境評価のための衛星画像利用に関する研究

代表者 桑原 智之（島根大学プロジェクト研究推進機構）他2名

テーマ 休耕田を利用した淡水シジミ栽培漁業の可能性の検討

## 学会誌掲載報文等による通信教育の参加者募集!!

農業農村工学会行事企画委員会  
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

通信教育を平成18年11月より本格実施しております。学会誌購読による自己学習で最大年間10cpd、また、通信教育で最大年間18cpd取得できますので、是非、通信教育にご参加下さい。

### 1. 参加会員の募集

参加をご希望の学会会員で、かつCPD機構会員の方は、農業農村工学会のホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）にある参加申込書に必要事項を記載してメール（E-mail: cpd@cpd.jsidre.or.jp）あるいはFAX(03-5777-2099)でお送り下さい。

なお、この機会に農業農村工学会、継続教育機構への入会を希望される方は、同様にホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>, <http://www.jsidre.or.jp/cpd>）に申込様式がありますので、ご記入の上お申込み下さい。

### 2. 申込期限

参加は、いつからでも可能です。

### 3. 事務局

機構の評価委員会内部に設置する部会および機構事務局が担当します。（TEL.03-5777-2098）

### 4. 内容

問題は3カ月前の学会誌の報文等から、機構通信教育部会が作成し掲載します。

問題は択一式で、毎回10問出題します。報文の事実的内容から作成し、回答はメールで機構に返信していただきます。

採点の結果、7割以上正解で1CPD、満点で1.5CPDが取得でき、機構会員の継続教育記録に自動的に登録されます。

解答は技術者倫理に則り、自らの責任において作成していただきます。

### 5. 参加費

学会会員のための行事の一環として実施するため、学会が必要経費を負担しますので、当分の間、通信教育参加費は無料です。

## 「農業農村工学会学術基金」の募金について

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本の農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっていま

す。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設、上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出

金等によることとしてきました。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、  
 お願い申し上げます。

なお、この学術基金による助成は、平成 17 年度までに 40 件の  
 実績をあげています。

**個人会員一口** 5,000 円（何口でも可）

**法人会員一口** 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058 口座名（社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031 加入者名 農業農村工学会学術基金

## 農業農村工学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてお願い

### 農業農村工学会災害対応特別委員会

農業農村工学会では、近年における地震、豪雨等による災害が  
 各地に発生し、農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしてい  
 る状況に鑑み、それら災害の原因究明、復旧対策工法の採用等  
 に対する支援を行う組織として、災害対応特別委員会を設置して  
 います。

この災害対応特別委員会では、①農地・農業用施設に甚大な被  
 害が発生した自然災害、②学術的見地から緊急調査が必要と判断  
 される自然災害に対して、災害発生後、直ちに災害対応調査団を  
 派遣し、調査の実施、復旧支援を行う体制を整備しています。

そこで、災害対応調査団を組織しなければならない事態が生じ  
 た時に、早急に対応できるよう、調査団のメンバーを希望される  
 方に事前に登録の申請をお願いします。審査の結果、登録された  
 会員は、災害対応調査団候補者名簿（2 年毎更新）に記載して、緊  
 急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

なお、災害対応調査団の団員の資格および派遣の条件は以下の  
 とおりです。

- ① 調査団の団員は、高度な専門知識を有する農業農村工学会員  
 とする。
- ② 調査団員は、候補者名簿にリストアップされた者から選定す  
 る。
- ③ 調査団の派遣期間は、原則 2～3 日とする。
- ④ 調査団派遣に関わる旅費は、農業農村工学会が後日精算する  
 （年度予算限度額 300 万円）。
- ⑤ 調査団員に対して、調査に必要と考えられる保険を掛ける。
- ⑥ 調査団は、調査結果を速やかに報告する。

上記の趣旨をご理解のうえ、学会事務局宛 FAX 03-3435-8494、  
 E-mail saigai@jsidre.or.jp までお申込み下さい。様式は農業農村工  
 学会ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp>）よりダウンロードし、  
 お申込み下さい。多数の応募をお待ちしております。

なお、登録頂いた個人情報、は、災害対応調査にのみ活用し、適  
 切に取り扱います。

## 国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」について

国際水田・水環境工学会（International Society of Paddy and  
 Water Environment Engineering:PAWEES）は、機関誌として国  
 際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊し、2007  
 年 9 月末には Vol. 5, No. 3 が発刊されます。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わ  
 る研究論文、技術論文が多数掲載されますので、研究者のみなら  
 ず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。  
 たくさんの方が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑（水配分管理、水収支、灌漑施設、栽培管理）
- ② 排水（排水管理、排水施設）
- ③ 土壌保全（土壌改良、土壌物理）
- ④ 水資源保全（水源開発、水文）
- ⑤ 水田の多面的機能（洪水調節、地下水涵養など）

- ⑥ 生態系の保全（水生、陸生動植物の生態系）
  - ⑦ 地域計画（農村計画、土地利用計画など）
  - ⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境、土壌環境、気象  
 環境）
  - ⑨ 水田の多目的利用（田畑転換、施設園芸）
  - ⑩ 農業政策（農村振興、条件不利地の支援策など）
- 水田農業を通じた国際的な研究交流、情報交換の場として、皆  
 様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと、会員には国際ジャーナルが、無料  
 で配布されます。

**出版社**：Springer-Verlag 社（ドイツ）

**発刊スケジュール**：2003 年 3 月創刊、以後 3 カ月ごと

**国際学会会費**：正会員 12,000 円/年/4 冊（送料等学会負担）

**学生会員（院生含む）** 8,500 円/年/4 冊（送料等学会負担）

**申込先:** 農業農村工学会編集出版部 馬目宛

**ホームページ:** <http://www.jsidre.or.jp>

※入会のお申込は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)

publ/ij/scope.htm) の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ、メールまたは FAX でお申しいただけます。

## 国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 編集事務局（投稿先）のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) は、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊、2007 年 9 月末には Vol. 5, No. 3 が発刊されます。

我が国においても学術誌の評価に、SCI (Science Citation Index) の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また、世界 13 カ国から Editor (14 名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが、**投稿料、掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

**投稿先:** PWE Chief Managing Editor, Dr. Soon-Jin HWANG  
International Society of Paddy and Water Environment Engineering (PAWEES)  
KOFST—Main Building #205  
635-4 Yeoksam-Dong, Kangnam-Gu, Seoul 135-703, Korea.  
Tel: +82-2-562-3627, 562-3613 Fax: +82-2-565-6821  
Email: sjhwang@konkuk.ac.kr, pawees@ksae.re.kr (will be made shortly)  
(During Jan. 2006 to Dec. 2008)

**編集方針:** 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

**編集体制** (2006. 1. 1 ~ 2008. 12. 31)

• **Editor-in-Chief:** Prof. Dr. Yoshisuke Nakano (Japan)

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

• **Editors** 13 カ国から 14 名

• **Editing Board** 32 名

• **Managing Editors**

**Chief Managing Editor:** Dr. Soon-Jin HWANG

Department of Environmental Science, Konkuk University, Seoul, Korea

**Dr. Yutaka MATSUNO**

Faculty of Agriculture, Kinki University, Nara, Japan

**Dr. Masaru MIZOGUCHI**

Department of Global Agricultural Science, University of Tokyo, Tokyo, Japan

**Prof. Dr. Tsugihiko WATANABE**

Research Institute for Humanity and Nature (RIHN), Kyoto, Japan

**Prof. Dr. Ke-Sheng CHENG**

Department of Bioenvironmental System Engineering, National, Taiwan University, Taipei, Taiwan, Rep. of China

**出版社:** Springer-Verlag 社 (ドイツ)

**投稿資格:** 筆者全員が国際学会員であること。

**投稿要領等:** <http://www.jsidre.or.jp> に詳細を記載しています。

## 農業農村工学会誌への投稿お待ちしております！

農業農村工学会誌編集委員会

### 自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。現在、掲載待ちの報文はなくなり、閲読が終了すれば、早期に掲載できる状況となりました。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ

に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。



## 学会誌 76 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ                         | 要 旨 縮 切<br>(A4判<br>1,500字以内) | 原 稿 縮 切<br>(刷り上り<br>4ページ厳守) |
|-------------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| 76 巻 1 号 農業水利施設の大規模地震対策の取組みについて (仮) | 公募終了                         | 平成 19 年 10 月 15 日           |
| 2 号                                 |                              |                             |
| 3 号 基幹水利施設のストックマネジメント (仮)           | 平成 19 年 9 月 25 日             | 平成 19 年 11 月 15 日           |

今後取上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集いたします。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、**刷り上り 4 ページ**となっておりますので、ご執筆の際には**厳守**いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 (社) 農業農村工学会 学会誌編集委員会あて

☎03-3436-3418 FAX 03-3435-8494 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

## 「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」の原稿を募集しています！

学会誌には、会員の職場や学校を紹介するコーナーとして、「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の薦める本」を設け、随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより、学会誌を親しみやすいものにするとともに、気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は、学会誌としての特徴を持ちつつ、他の機関誌とは違ったもので、できるだけ学会に関係のある内容、たとえば、

**オフィス便り**は、「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」、「技術者継続教育」・「技術

力の向上」・「技術者倫理」など。

**キャンパス便り**は、「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に、より広く事業や地域、また大学や研究室の紹介、その他の取組み状況を含めて、職場、学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿下さい。

原稿の長さは、**刷り上がり 1 ページ**(1,800 字程度)で、写真を 1 ～2 枚程度入れて下さい。

**私の薦める本**は、原稿の長さが写真・体裁等含む刷り上がり 1 ページ以内(1,200 字)で、原稿には表紙の写真を含めて下さい。

## 第 76 巻 3 号テーマ「基幹水利施設のストックマネジメント」(仮)

農業用ダムや頭首工をはじめとする農業水利施設のストックは、食料安全保障や国土保全、親水、生物多様性の保全などの多面的機能を発揮してきており、順次更新時期を迎えるこれら施設を適切に管理し、その機能を保全していくことが今後の課題となると指摘されてから 10 年近い時間が経過しようとしています。

この間、農業水利施設の機能診断や補修・補強にかかる技術の開発や試行的な取組が各地で実施されてきましたが、平成 18 年度の食料・農業・農村政策審議会農村振興分科会農業農村整備部会技術小委員会において、ストックマネジメントの指針ともなる「農業水利施設の機能保全の手引き」が取りまとめられ、また、国も平成 23 年度までにすべての国営造成施設を機能診断する方針を打

ち出すなど、いよいよ本格的にストックマネジメントを実施する時代に入ることとなりました。

手引きにおいてストックマネジメントの考え方は、「農業水利施設の有する機能に着目し、その性能を最適な手法によって一定の範囲に維持すること」とされており、小特集では、農業水利施設の機能と性能、性能の管理基準の考え方や、経済性や時期決定を含めた対策工法の決定手法などを紹介することとしています。

これに加え、各地における先駆的な基幹水利施設に関する機能診断調査・評価、対策工法の検討等のストックマネジメントの取組を解説・紹介したいと考えておりますので、この具体的な事例について広く報告を公募いたします。

### 身近にある水利遺構で表紙を飾ろう !!

### 「水土の知 (農業農村工学会誌：旧／農業土木学会誌)」平成 20 年夏季の表紙写真の募集

学会誌編集委員会では、平成 20 年も引き続いて皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。テーマは昨年と同様で、「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」とします。

下記の要領で学会誌第 76 巻(平成 20 年 1～12 月号)のうち、特に夏季の表紙写真を募集します。奮ってご応募下さい。

#### 記

#### 1. 趣旨

これまで農業農村工学技術による構造物は、過酷な自然の猛威にさらされながらも、農業経営、防災などの面で人々の生活を支えてきました。これら用水路、頭首工、堰堤などの水利施設は、それぞれの機能を十分に発揮しながら年月を重ねていくことで、水を制御するという力強さに、そして周囲の自然景観にとけ込むことで、その美しさに磨きがかかってくるようです。

先人たちが遺してくれた多くの構造物の中には、かけがえのな

い風景を生み出す文化遺産とも言うべき名高いものもありますが、私たちが身近で目にする農村地域にも、規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

## 2. 写真の種類

単写真、組写真いずれもカラープリントで（デジタルカメラの場合はJPEG ファインモードまたはTIFF モードに設定）撮影してください。入選の際にはデジタルデータをお送りいただく場合があります。組写真の場合は、その旨明記して下さい。

## 3. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

## 4. 締切 平成 19 年 9 月 30 日（夏季の写真）

## 5. 注意点

応募された被写体の季節が極端に偏ることから、募集する季節ごとに締切を設けさせていただきました。ご注意下さい。

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、水利構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれる（花などの情緒物に埋没しない）、デジタル画像の場合で解像度が不十分で表紙に拡大してドット崩れしない、ことが採用の条件となります。

# 第 56 回北海道支部研究発表会の開催について（第 1 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



## 1. 期日 平成 19 年 10 月 30 日（火）

会場 札幌市・北海道大学学術交流会館 2 階講堂  
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ）

## 2. 研究発表申込

発表を希望する方は投稿原稿に先立ち、発表表題・発表者名と発表形式の希望（口頭またはポスター）を E-mail、FAX または郵送にてお申込下さい。

発表申込の締切は平成 19 年 9 月 14 日（金）です。

発表申込者には折り返し講演集原稿作成要領をお送りします。

講演集原稿の締切は平成 19 年 10 月 5 日（金）です。

## 3. 参加申込

下記様式により、E-mail、FAX または郵送にてお申込み下さい。

参加申込み締切は平成 19 年 10 月 19 日（金）です。

所属機関 \_\_\_\_\_

同上所在地 \_\_\_\_\_

申込代表者 \_\_\_\_\_

TEL \_\_\_\_\_

| 氏 名 | 所 属 | 備 考 |
|-----|-----|-----|
|     |     |     |
|     |     |     |

## 4. 発表・参加申込先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

## 5. 参加費用

2,000 円（当日会場にて申受けます。）

# 北海道支部第 34 回研修会または第 31 回シンポジウムの開催について（第 1 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



## 1. 期 日：平成 19 年 12 月 4 日（火）

2. 会 場：札幌市・北海道大学学術交流会館  
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目・北大正門すぐ）

3. テーマ：講演題目、講演者、プログラム等については、続報にてお知らせします。

## 4. 問合せ先

〒060-8589 北海道大学大学院農学研究院内

農業農村工学会北海道支部事務局

担当：柏木淳一 E-mail：kashi@env.agr.hokudai.ac.jp

☎011-706-3641 FAX 011-706-2494

# 平成 19 年度東北支部総会・第 51 回研究発表会

並びに第 41 回支部研修会・第 31 回地方講習会の開催について（第 3 報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



## 1. 期日 平成 19 年 10 月 31 日（水）、11 月 1 日（木）

2. 会場 福島市「福島テルサ」  
〒960-8101 福島市上町 4-25  
☎024-521-1500

## 3. プログラム

<第 1 日目> 10 月 31 日（水）

(1) 総会並びに研究発表会

9:00～9:30 受付

9:30～10:15 支部総会

10:15～10:45 支部賞受賞式

10:45～11:00 休憩

11:00～12:00 特別講演「水から考える地域づくり」（仮

題)

講師：柴崎直明氏（福島大学共生システム  
理工学類教授）

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～17:00 第51回研究発表会

(2) 情報交換会

18:00～19:30 会場：「サンパレス福島」

<第2日目>11月1日(木)

(3) 支部研修会・地方講習会

9:00～9:30 受付

9:30～9:40 開会挨拶

9:40～12:00 第41回支部研修会『農村の元気UP～ふくしまからの便り』

①「小野町に定住して」(仮題)

講師：杉岡直人氏（農業者、小野町ふるさと暮らし支援センター副理事長）

②「番組制作を通しての人とのふれあい」(仮題)

講師：蘭草英己氏（福島テレビアナウンサー）

12:00～13:00 昼食・休憩

13:00～15:20 第31回地方講習会

①「農業水利施設の機能保全の手引き」の解説

②「土地改良事業における費用対効果分析手法の見直し」

15:20～15:30 閉会

※本大会の会場に福島県における農業農村整備事業の取組みを紹介する「パネル展示コーナー」を設営します。

#### 4. 参加申込と参加費振込先

平成19年度の大会全般を福島県が担当し、研究発表会のプログラム編集は山形大学が担当します。

##### A. 参加申込・参加費納入先

(1) 参加費内訳

総会並びに研究発表会 3,000円（学生会員2,000円）

支部研修会並びに地方講習会 7,000円（非会員8,000円）

情報交換会 5,000円

昼食 1,000円(1食分)

(※会場周辺にも食事をする場所がありますが、弁当を手配しますので、ご利用下さい。)

申込書式（下記東北支部開設のホームページよりダウンロードできます）により所属機関ごと一括して、FAX、E-mailまたは郵送にてお申込下さい。

例

農業農村工学会東北支部総会・研修会参加申込書

所属機関名：

所在地：（〒）

連絡者名（ふりがな）：

電話：

FAX：

E-mail：

| 所属      | 氏名   | 総会・研究発表会         |       |           | 研修会・講習会          |       | 合計金額   |
|---------|------|------------------|-------|-----------|------------------|-------|--------|
|         |      | 参加費<br>(学生会員)    | 昼食    | 情報<br>交換会 | 参加費<br>(非会員)     | 昼食    |        |
|         |      | 3,000<br>(2,000) | 1,000 | 5,000     | 7,000<br>(8,000) | 1,000 |        |
| 例. 福島県  | 福島太郎 | 3,000            | 1,000 | 5,000     | 8,000            | 1,000 | 18,000 |
| 例. 山形大学 | 福島花子 | 2,000            | 1,000 | —         | —                | —     | 3,000  |
| 総合計金額   |      |                  |       |           |                  |       | 21,000 |

(2) 申込および問合せ先

〒960-8670 福島県福島市杉妻町2-16

福島県農林水産部農村計画グループ 廣田雅幸

☎024-521-7405 FAX 024-521-7545

E-mail: hirota\_masayuki\_01@pref.fukushima.jp

(3) 参加費の振込先

銀行名 東邦銀行 県庁支店（店番号103）

口座番号 普通 1352944

加入者名 農業土木学会東北支部 代表 鈴木貞夫

※手数料は振込者負担をお願いします。

(4) 参加費の納入と取消し等

参加費の納入は、申込と同時に銀行振込で全額納入して下さい。

なお、参加取消し等による参加費の返金には応じかねますので、ご注意下さい。

(5) 参加申込み期限

平成18年10月5日(金)

B. 研究発表会について（研究発表会の申込は終了しています。）

(1) 問合せ先

〒997-8555 山形県鶴岡市若葉町1-23

山形大学農学部 安中 武幸（あんなか たけゆき）

☎0235-28-2903 FAX 0235-28-2901

E-mail: annakt@tds1.tr.yamagata-u.ac.jp

(2) 発表時間・発表手段

発表時間は15分以内（発表12分、質疑3分）

発表補助手段（パソコン使用可（Power Point, CD-R, RWおよびUSBメモリ使用可））

#### 5. 会場への案内

(1) JR、高速バス利用の場合

・JR 福島駅東口から徒歩10分

(2) 航空機利用の場合

・福島空港より、シャトルバス・JR利用もしくは乗り合いタクシー（前日まで要予約）で約75分

(3) 自家用車の場合

- ・東北自動車道福島西 IC から約 20 分
- ・東北自動車道福島飯坂 IC から約 15 分
- ※自家用車の場合、福島テルサ駐車場を利用できますが、  
有料(100 円/30 分、ただし 2 時間まで無料)となります

ので、ご注意下さい。

※東北支部大会の最新情報は下記ホームページでお知らせいたしますので、ご活用下さい。

<http://www.tr.yamagata-u.ac.jp/~ohkubo/sibu.html>

## 平成 19 年度応用水理研究部会講演会開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中



- 日時**：平成 19 年 12 月 10 日（月）13：00～  
11 日（火）17：00 まで
- 場所**：岐阜大学連合大学院研究科棟
- 課題**：「農業土木分野における応用水理学に関する研究」
- 発表時間**：1 課題当たり 20～30 分
- 応募の締切**：平成 19 年 11 月 12 日（月）
- 発表原稿**：オフセット印刷しますので、学会講演会と同じ様式をお願いを致します（A4 版）。頁数は制限致しません。
- 提出方法**：発表原稿は、E-mail の添付ファイル、MO、CD-

ROM、FD のいずれでも結構です。

なお、応募して戴ける方は 11 月 5 日（月）までに、発表者名と講演課題名を、事前にご連絡下さい。

問合せ先：〒501-1193

岐阜市柳戸 1 番 1

岐阜大学 応用生物科学部

板垣 博

Tel&Fax 058-293-2879

E-mail [hiroshi@gifu-u.ac.jp](mailto:hiroshi@gifu-u.ac.jp)

# こんな管路も、復活できます。

|                                                          |                                                                   |                                                                  |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|
| <p><b>長距離</b><br/>管路復活</p> <p>●実績例：φ600×558m / 1 スパン</p> | <p><b>伏越</b><br/>管路復活</p> <p>●実績例：φ400×200m / 伏越 2 カ所 / 1 スパン</p> | <p><b>斜面</b><br/>管路復活</p> <p>●実績例：φ900×150m / 35 度 / 高低差 54m</p> |
|----------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|

低コスト・短工期  
施工後は管路機能がアップ

## インシチュフォーム工法

世界 40 カ国以上の実績が、農業水利の更生事業をお手伝い致します。

●詳しいお問い合わせはこちらまで



日本インシチュフォーム協会

[www.insituform.gr.jp](http://www.insituform.gr.jp)

事務局 〒163-1036 東京都新宿区西新宿 3-7-1 新宿パークタワー 36 階 TEL：03-3346-8022 / FAX：03-3346-8024